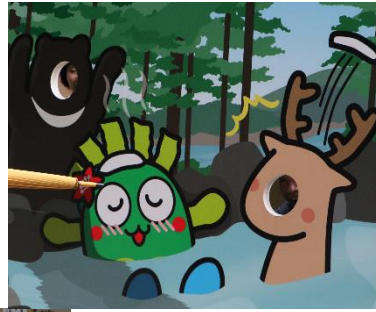


発電所





奥多摩駅より帰路につきました



紅葉の鳩ノ巣溪谷

鳩ノ巣溪谷から白丸ダムを経て「もえぎの湯」へ



私達の還暦を過ぎてから始めた「34歩く会」は、ついに20回目を迎えました。これまで、私達の生まれ育った故郷、東大和を中心にウォーキングをしてまいりました。延べ参加者は350人を超えました。回を重ねるごとに歩行スピードは遅くなり、歩行距離も次第に短くなってきましたが、皆さんのご協力により、事故も無く楽しいウォーキングができました。これからも、健康の証として、歩ける限りこの「34歩く会」を継続して行きたいと思います。

さて今回、第20回の「34歩く会」は、少し遠出をして奥多摩まで行き、紅葉の鳩ノ巣溪谷を歩きましょう。集合は、JR鳩ノ巣駅に11時です。

JR鳩ノ巣駅に集合し、多摩川に下ると、真っ赤に染まった紅葉の中に、鳩ノ巣溪谷の絶景が広がっています。切り立った大岩壁やゴツゴツした大きな岩の間を、岩を噛む清流が流れ下っており心も洗われることでしょう。鳩ノ巣溪谷の上には吊り橋が架かっていますので、ここを渡りましょう。そして紅葉の中でお弁当を開きましょう。

「紅葉で酒を温める」なんて言うのも良いかもしれませんよ。

鳩ノ巣溪谷からは、溪谷の遊歩道を遡り、白丸ダムに出ます。白丸ダムには、下流から遡ってきた魚がダムの上流に泳いで行けるように、特別な日本最大級の魚道が造られておりますので、これを見学しましょう。ダムサイトに湖底近くまで降りられる魚道の見学場所がありますよ。

白丸ダムからは溪谷に沿って遊歩道を歩き、数馬峡橋を過ぎると、数馬峡遊歩道になり、トンネルもあります。更に進むと、東電氷川発電所があり養魚場などもあります。ここからは多摩川に沿った一般道を歩きますが、途中の多摩川の左岸には「もえぎの湯」がありますので、ここに立ち寄り、疲れた身体を癒やすのも良いでしょう。ここからは終点のJR奥多摩駅はすぐ近くです。

なお、往復のJRは、「奥多摩フリーパス」を購入して利用すると、割安になるかと思います。(奥多摩フリーパスは、西武線の各駅でも購入できます)

さらに、第20回の打ち上げとして、クラス会で乾杯をして大いに盛り上がりましょう!

歩行距離：約5km

1. 開催日：平成29年11月18日(土) 11時集合

2. 集合場所：JR青梅線；鳩ノ巣駅

3. 歩行コース：(ト)はトイレ

鳩ノ巣駅(ト)——鳩ノ巣溪谷(昼食)——白丸ダム——数馬峡橋——

11:00 11:30 12:15 12:30 12:45 13:30

——数馬峡遊歩道——氷川発電所——JR奥多摩駅(ト)(解散)

14:00 14:30 15:15

4. 注意事項；

① 小雨決行です。

② 昼食は、鳩ノ巣駅で購入が可能です。途中に蕎麦屋さんもありますが、コンビニはありません。



紅葉の鳩ノ巣溪谷

鳩ノ巣溪谷から白丸ダムを経て「もえぎの湯」へ



東京都奥多摩ビジターセンター

☎0428-83-2037・開館時間：午前9時～午後4時30分(月曜休館)

紅葉の鳩ノ巣溪谷 歩行記

前日まで秋晴れの晴天が続いたが、前日の天気予報では34歩く会の当日18日は、東京地方は大雨の予報であった、当日の朝9時、曇天ではあるが、幸いにまだ雨は降っていない。上下の雨合羽やスパッツ、ザックカバーなどをザックに詰め、雨対策を充分にして、とにかく集合場所であるJR鳩ノ巣駅に行ってみることにする。途中、B組の石原さんと同行して、10:15に鳩ノ巣駅に到着した。駅舎の前には真っ赤に紅葉したモミジが見事だ。曇天で、今にも雨が降りそうな天気なので、駅周辺には観光客はおらず、ひっそりとしている。駅前の店先に人影が二人見える。地元の人かと思いきや、何と、その一人は我々の仲間の三澤さんではないか！大雨を覚悟して、傘を一本だけ持ってここまで来たとのこと。これで参加メンバーは3人になった。

11時の集合時間の10分前に、下り電車が駅に到着。この電車で我々の仲間が何人来るかと思ったが、降りてきたのは後藤さん一人だけ。大雨の天気予報だったので、今回の参加者は4人だけか！念のため、矢沢さんの携帯に電話してみると、11:17着の電車に乗っており、仲間で7名同乗しているとのこと。さすがは34歩く会、大雨の予報にもかかわらず11名の参加だ。

曇天だが雨は降っておらず、空が明るくなってきたようにも思える。本日の参加者全員が集合し、本日のコースや注意事項などを説明し、駅前で集合写真を撮って、いざ出発！ 11:30

鳩ノ巣駅前の奥多摩道路のすぐ下には、鳩ノ巣溪谷に落ちる立派な滝があるが、路の一部が崩壊しているため現在は通行止になっている。そこで多摩川にかかる雲仙橋に行く。橋の上からは、上流・下流ともに遙か下に見事な溪谷が見下ろされる。岩に当たり白く砕ける清流と、周辺の紅葉・黄葉が素晴らしく、思わず息を飲む。錦絵のような景色で、眺め続けていたいようだ。

橋からは落ち葉を踏みながら遊歩道を下る。すでに廃屋になってしまったホテルの脇を通り、階段を下ると、その脇には5mほどの滝が流れ落ちており、しばし眺める。そこから溪谷の岩の上に出ると、怖々覗き込んだ溪谷には、大きな岩の間を轟音を上げて急流が流れ下っており、その上流には吊り橋も見える。下流側には切り立った岩壁の上に、先ほど渡った雲仙橋がみあげられる。まるで川合玉堂の絵のような眺めだ。11:45

再び先ほどの滝の前を通り、坂を上ると「鳩ノ巣小橋」の吊り橋に出る。橋のたもとを見ると、一度に渡れる定員は5名と書いてある。最初は遠慮して慎重に渡っていたが、ついに全員が橋の上に乗ってしまった。橋の上から見下ろす溪谷は、岩に砕ける清流と紅葉が全く見事だ。怖さも忘れて歓声を上げてし

ばし眺める。11：50

「鳩ノ巣小橋」を渡って行くと、ゴツゴツした岩の上の路に入る。大きな岩と岩とを渡り歩き、狭く急な階段状の岩を上り下りしながら歩く。右下には多摩川の清流と溪谷が広がっているが、それに見とれていると足元が危ない。溪谷の水は、所々緑色になっており、深そうな処もある。川合玉堂の溪谷の絵の中を歩き進んで行く。やがて白丸ダムの壁が見えてくると、ダムの上の高さまで上る急な長い階段が続いている。極めて急な階段で、一つ一つの段差もあるので、石を落とさないように慎重に登る。そして半分ほど登ったところで一息入れ、皆で励まし合い、声をかけながら再び登り始める。今日の寒い天気を予想してきたため、やや厚着しているので暑くなり、上着を1枚脱ぎ、荒い息遣いをして登る。やがて長い階段を登り切ると、平坦な休憩場が広がっており、木製のベンチやテーブルもある。昼食時間にはやや早い、難関を突破してきたのでここで昼食とする。雨は降っていないが、天気の変化も予想されるため、昼食の時間は短めにすることにした。皆でテーブルを囲み、持参したお弁当を広げて、談笑しながら美味しくいただく。話題は先ほど苦労して登ってきたことや大相撲の日馬富士の暴力問題など話が尽きない。Oさんからはオリーブの塩漬けなどのお裾分けをいただき、元気を付ける。12：10～12：30

お天気が心配なので、昼食時間は早々に切り上げて先に進むこととし、再出発。杉林の中を抜けると、白丸ダムの堰堤の上に出る。左側には満水状態の緑色のダム湖が広がり、右側には遙か下に鳩ノ巣溪谷が伸びている。溪谷の左岸の岩の間には階段状の小さな滝が無数に連なり、くの字型に伸びている。下流から遡ってきた鮎などの魚が、ダムより上流に泳いで行けるように、作られた日本一の「魚道」だ。その「魚道」を間近に見学できる施設が対岸にあるので、ダム堤から階段を上って施設に入る。建物の中央には直径10mほどの大きな穴が開いており、覗き込むと数十メートルの底まで螺旋階段が続いている。そのあまりの深さに、階段を下るのを断念した人がいたが、9名が下り始める。螺旋階段を150段ほど下った底には、傾斜した長いトンネルが延びており、そこに魚道が設けられている。魚道は連通した水槽が連なった形状で、魚たちは流れに遡って箱を一つ一つ超えて遡って行くのだ。この魚道は全長300m以上で、落差が30mもある日本最大級の設備だ。我々も長いトンネルを登って行き、ダム湖の脇に出る。12：55

再びダムの堤を渡り、ダム湖に沿って作られた遊歩道を進む。この遊歩道は5年ほど前の台風で崩壊してしばらく通行止めになっていたが、今年7月にやっと通行できるようになった。遊歩道はよく整備されており、歩きやすい。緑色の湖面と紅葉の色模様が素晴らしい。また対岸の紅葉が湖面に映った景色も素晴らしい。シーズンにはこのダム湖にはカヌー教室もあり、遊歩道の脇にはカ

ヌーが積み上げられている。 やがて橋の下を潜り抜け「数馬峡橋」の上に出る。この橋の上からの眺めも、湖面の色と紅葉と周囲の山々の色がコラボレーションして見事だ。13：25

この数馬峡橋の脇には地元野菜を使ったレストラン「アースガーデン」があり、我々が大声で話をしているとレストランの若者が出てきて誘う。お天気も変わりなさそうなのでそのお誘いになり、コーヒータイムとする。このレストランは、以前は蕎麦屋であったが数年前からレストランに変わった。店主は、映画「釣りバカ大将」の初代女房役ミチコさんを演じた女優「石田えり」さんの妹だ。彼女は奥多摩が好きで、都内から奥多摩に移り住みレストランを始めたそう。風情のある門を潜り店に入ると、その店主が出迎えてくれた。コーヒーをいただき、しばし談笑。13：40～14：10

店を出て、再び遊歩道を進む。ここからの路はやや狭く、階段の上り下りが続く。やがてトンネルに出る。このトンネルは以前は人一人がやっと通れるほどだったが、最近整備されてコンクリートの立派なトンネルになっている。真っ暗なトンネルを抜けると路が広がり、やがて民家も現れた。何か所か住居跡があり、水道だけが残っている。坂を下ると眼前に長い急な水路と、その下に発電所が現れる。この水路の水は奥多摩湖から山の中を導かれてきたものだ。発電所の脇を通り抜け、多摩川の歩行者専用の橋を渡り、奥多摩道路に出る。ここからは歩道が無い道路を、落葉を蹴ったり踏んだりしながら進む。左下は急な崖になっており、多摩川が流れている。14：35

やがて新しいトンネルが現れ、その脇の旧道に「もえぎの湯」が現れた。今日は土曜日なので沢山の車が来ており、賑わっている。施設の入り口付近には「足湯」があるので、希望者が入湯料100円を払って入湯。仲間の女性達と足湯での「混浴」となった。15分ほどの入湯で充分温まると、今日の疲れも無くなり、足がとても軽く感じる。14：50～15：10

「もえぎの湯」からは、再び多摩川にかかる吊り橋「もえぎ橋」を渡る。しっかりした吊り橋だが全員で乗り、だれかが揺らしたので、ゆらりゆらりと大揺れする。あまり揺られていたので、渡り終わってから道路を歩いていると地震に揺られているようにフラフラする。大通りの向こう側には、ワサビ工場の「山城屋」がある。その小売店の中では1人の女性店員が一心不乱に作業をしており、我々の方には見向きもしない。先ずYさんが店に飛び込み、次々と全員が店に入り、ワサビの粕漬やワサビの葉の漬物、ワサビ海苔などの試食品を味わい、それぞれお土産を購入。15：20

ワサビ工場からは奥多摩キャンプ場の前を通り、JR奥多摩駅に到着。15：45

全員元気に完歩し、16:05 の電車で帰路についた。今日の歩数は約 13,000

歩であった。

メンバーの中に晴れ男や晴れ女がいたためか、雨が一滴も降らず、紅葉も見頃で、溪谷やダム湖など変化に富み、充実した一日であり、第 20 回の「34 歩く会」に相応しいウォーキングであった。

次回は原点の第一回ウォーキングに戻り、多摩湖を歩く予定だ。

これからも健康の証として、このウォーキングを続けていきたいものだ。